

町を守り続ける 三里松原

海岸線に沿って形成された長さ約12キロメートルに及ぶ三里松原。それは、私たちの暮らしを守ってくれる欠かせない存在です。今回の特集では、三里松原が担っている役割や課題を紹介し、未来につないでいくために私たちができることを考えます。

問い合わせ 農林水産課

植林の始まりは 江戸時代

資料として確認できる三里松原の植林の始まりは江戸時代初期。明暦元年（西暦1655年）、福岡藩第3代藩主の黒田光之の命で25年かけて植林されました。その後18世紀に入り本格的な植林が行われ、名実ともに三里松原となりました。明治30年（西暦1897年）以降は国有林として国が維持管理を行っています。昭和31年（西暦1956年）には玄海国定公園の一部として指定され、現在では町のシンボルとして多くの人に親しまれています。

町を守る松の力

大きく成長した松は、海から吹きつける強風や潮風、飛砂を和らげ、家屋や農地への被害を防いでいます。三里松原は、今もなお私たちの暮らしを自然の力で守り、その大切な役割を果たし続けています。



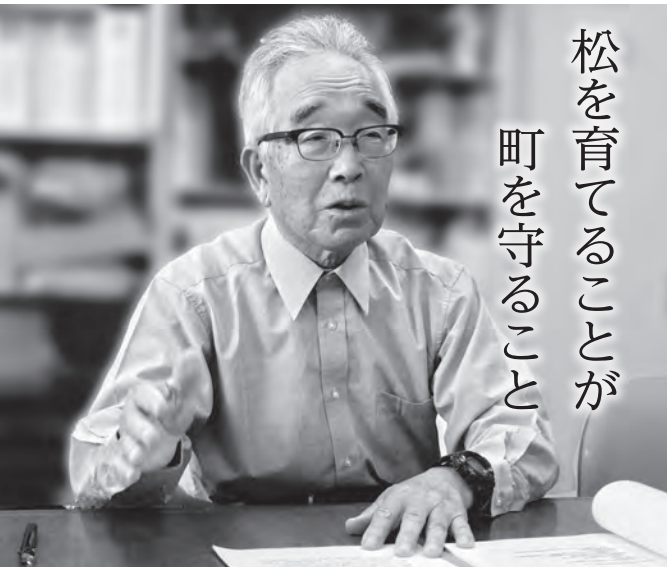
さまざまな課題も

三里松原は、近年いくつかの課題を抱えています。

1つ目は、カミキリムシが運ぶ寄生虫による被害です。寄生虫が松の木の中に入ると水の通り道をふさぎ、松が枯れてしまいます。平成20年代には、大規模な松枯れが発生し、多い年では1年間に約3万3千本の松が被害に遭いました。

2つ目は、広葉樹の増加です。昔は落ちた松葉を燃料として利用する人が多くいましたが、プロパンガスの普及などで利用されなくなり、松葉が積もって広葉樹が育ちやすい環境になりました。その結果、松より生育力の強い広葉樹が増え、松が育ちにくくなっています。

3つ目は、イノシシやシカなどの有害鳥獣の増加です。有害鳥獣が松の根を掘り返したり、新芽を食べたりすることで、松の成長を大きく阻害しています。



松を育てることが 町を守ること

三里松原防風保安林保全対策協議会

会長 平井政秀 さん

平成 22 年に同協議会に入会し、平成 28 年から会長を務めている。松葉かきなどの住民参加の保全活動や巡回活動などを通して、三里松原の保全・保護活動に励んでいる。令和 7 年度、日頃の活動が評価され、協議会が「緑化功労者表彰」の農林水産大臣賞を受賞。



▲受賞の報告で町長を訪問した協議会の代表者の皆さん
【写真左から】
太田副会長、門司町長、平井会長、小野副会長

インタビュー

Interview

今回は、長年にわたり保全・保護活動が続け、三里松原のことをよく知っている三里松原防風保安林保全対策協議会の平井会長に話を伺いました。

― 昔の三里松原は、人々の暮らしとどのように関わっていましたか。

私が子どもの頃は、松原に入ってキノコやヤマモモなどを採ったり、松がない広い場所で野球などをして遊んだりしていました。植物や生き物を学ぶ場にもなっていましたね。

また、昔は今のようにはガスではなく、薪などで風呂を焚いていたので燃えやすい松葉が燃料になっていました。当時はとても貴重なものだったので、松葉かきをする場所は毎年くじ引きで決まっていたはずです。昭和 30 年代になってプロパンガスが家庭に普及してからは、燃料としての役目を終え、住民が松原に入る機会は次第に少なくなっていました。

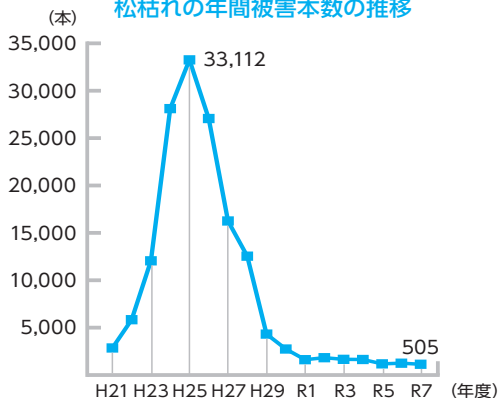
― 昔と比べて三里松原はどのように変わりましたか。

昔は樹齢 200 年を超えるような大きな松がたくさんありました。その松が目印となり、広大な三里松原でも迷うことはなかったのですが、今は大きな松もなくなり、広葉樹が増えているので、自分の位置を見失うこともありますね。また、広葉樹が増えたことで、三里松原沿いの道から松が見えなくなってしまうということも残念です。

― 皆さんに知ってほしい、三里松原の重要性を教えてください。

カミキリムシが運ぶ寄生虫によって枯れた松を放置しておくと、健康な松にも寄生虫が移動して被害が拡大してしまいます。枯れてい

松枯れの年間被害本数の推移



る松を早く見つけて対応することが大切ですが、広葉樹の増加で見つけにくくなっています。また、松が見えにくくなることで、三里松原の存在を住民が意識する機会が少なくなっているように思います。皆さんにも知っていただきたいのは、松に代わる存在はないということです。広葉樹は、冬に葉を落とすため、その時期は風を防ぐ力が弱まります。また、潮風を受け続けると葉や枝が傷み枯れてしまいます。冬の北風や台風などの潮風被害から家屋や農作物を守るためには、背の高い松を育てることがとても重要です。

大規模な松枯れがあったときと比べ、被害本数は年間 500 本ほどと減っていますが、これからも徹底した対策が必要だと思います。三里松原のことや保全・保護活動に興味を持っていただけるとうれいです。

団体募集

アダプト制度の活用

清掃活動など、三里松原の一部を里親のように愛情を持って管理する団体や企業を募集しています。

申し込み 三里松原防風保安林保全対策協議会（農林水産課）



松苗植樹

松枯れ被害があった場所に新たな松苗を植樹し、三里松原の機能が損なわれないよう松林の再生に取り組んでいます。



守りつないでいくため、
多くの取り組みが
行われています

三里松原防風保安林 保全対策協議会の活動

誰でも
参加可

松葉かき

毎年12月上旬に行われ、約150人のボランティアが参加します。松葉かきをすることで、地面に積もった松葉やコケを取り除き、松が生育しやすい砂地に整えています。



■松の植樹

計画的に植樹を行い、防風保安林としての機能を高めています。令和7年度には、13,100本の松を植えました。



■本数調整伐

成長した松は本数が増えると互いに成長を妨げてしまうため、必要に応じて松を伐採し、大きな松になるように調整しています。



■航空防除

カミキリムシを駆除するため、毎年5～6月に薬剤を空中で散布し、松枯れの被害を未然に防いでいます。



■防風柵の設置

海岸からの強い潮風は小さな松の成育に支障をきたします。そのため、風が直接当たらないよう、防風柵を設置しています。



国有林・三里松原を管理する
林野庁福岡森林管理署の活動

参加者募集

三里松原のこと、もっと深く学んでみませんか？

三里松原の役割や保全活動などを、より深く学ぶことができる講座を催します。三里松原を未来へつないでいくために、ぜひこの機会に参加してみませんか。

対象 町内に住み、全ての講座に参加できる人

ところ 役場

時間 午後1時から2時間程度

費用 無料

申し込み 9月1日(火)～30日(水)に三里松原防風保安林保全対策協議会（農林水産課）

第1回 講話	10月31日(土)	●私たちの三里松原 ●松原の役割・機能
第2回 講話・体験	11月28日(土)	●三里松原の歴史 ●松の特性について ●防除体験
第3回 講話	12月19日(土)	●三里松原の現状と課題 ●松原会の活動成果
第4回 体験	令和9年 1月16日(土)	●現地視察 ●松苗植樹体験

※講座の内容は変更になることがあります。

巡視員活動

三里松原沿線の地域に住む約20人の巡視員が、松原内を巡回しています。松の育成状況などを林野庁福岡森林管理署に報告し、対応を依頼しています。



要望活動

毎年10月に林野庁福岡森林管理署に対して、松枯れ防止や松林の再生・保全、有害鳥獣被害などの対策を要望しています。



私たちと三里松原が
共に生きていくために

潮風や砂から町を守り、豊かな自然と美しい景観を育んできた三里松原。私たちはその恵みを受けながら暮らしています。このかけがえのない岡垣町の財産を未来につないでいくためには、一人一人が関心を持ち、知識や理解を深め、守る活動の輪を広げていくことが大切です。その一歩を踏み出してみませんか。

